

着任挨拶

浅井英利 協力ネットワーク開発研究領域 研究員
(平成21年11月1日～平成22年3月31日)

昨年11月に「東アフリカ稻作振興のための課題解決型研究」で任期付き研究員として採用され、現在はケニア陸稲栽培の生産性改善を目標に現地調査に従事しています。大学院時代には国際イネ研究所のアドバイザーのもとで「ラオス北部での持続的焼畑農業」に取り組んでいました。今でも、イネ研究者である彼の言葉が鮮明に記憶に残っています、「どうしてイネだけにこだわるの?大切なのは農家がハッピーになることだよ」。自分の視野の狭さを痛感しました。国際協力を目的とする本センターを希望したのも、思えばあの一言が始まりです。深い専門性と俯瞰的な視点を兼ね備えた研究者、私が描く理想像に近づけるよう日々努力していきます。

略歴 1980年生れ。2002年、京都大学農学部資源生物学科を卒業。2002年より京都大学大学院農学研究科博士前期・後期課程に在籍。2010年、同大学院にて博士号(農学)取得。専門:作物学・農業生態学。



外国人客員研究員

ネリカ耐冷性の品種間差異の検定とケニア高原地方に適した耐冷性イネ品種の選抜

ピーター・マシンデ ジョモケニヤッタ農工大学農学部園芸学科上級講師
ICCAE客員研究員 (2009年5月7日～11月5日)

私は槇原大悟先生の暖かい出迎えのもと、2009年5月7日に名古屋大学に着任しました。私を客員研究員として招へいして下さった山内章ICCAEセンター長に感謝致します。

ICCAE滞在中、浅沼修一、北野英己、槇原大悟、犬飼義明先生方から多大な支援を受けました。彼らは忙しい中、時間を割いて、私の研究を円滑に進めるのを指導して下さり、私の研究生活を思い出多いものにして下さいました。北野先生との東郷フィールドでの仕事は大変貴重なもので、イネの研究に関する私の見識を深めることができました。またICCAE事務室の皆さんにも感謝しております。中嶋、水上、坂先生をはじめ愛知県農業総合試験場山間農業研究所のスタッフの皆様には研究活動の支援と、イネの育種、いもち病の評価について大変重要な技術を教えて下さり感謝致します。中嶋先生のおかげで、山間での研究は大変楽しいものとなりました。

略歴 1970年ケニア生れ。ジョモケニヤッタ農工大学農学部園芸学科卒業後、同学科ティーチング・アシスタントならびに助講師として勤務。1998年ナairobi大学農学部園芸学科修士課程を修了し、ドイツ・ハノーバー大学博士課程にて2003年博士号(園芸学)を取得。2005年岡山大学客員研究員。2003年12月より現職。



カンボジアにおける酒造りの品質管理手法とマーケティング、サプライチェインに関する研究

チャイ・チム カンボジア王立農業大学 (RUA) 大学院研究助手
ICCAE客員研究員 (2010年1月5日～3月31日)

ICCAEでは、酒工場の工程管理を観察することによって、酒の品質管理と付加価値についてより深い理解を得ることができました。またカンボジアにおけるマーケティングやサプライチェインの構築方法を研究しました。この経験をカンボジアでの農産物加工産業の振興に活かし、またRUAのカリキュラムに取り入れたいと考えています。RUAには学生が実習を行えるように品質管理をテストできる蒸留装置が設置されています。これはRUAの学生だけでなく、農民の米酒による収入向上に寄与し、カンボジアにおける農産物加工産業の振興に貢献すると思います。

私を招へいしてくださったICCAEのスタッフを始めすべての人々、特に松本教授と伊藤准教授に感謝の意を表します。

略歴 1983年カンボジア、コムボン・トム州生れ。2006年RUA農業産業学科卒業、2009年にRUA大学院農業・農村開発科農学専攻修士課程修了。現職:RUA大学院研究助手。



オープンセミナー (2009年8月～2009年12月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2009年度 4回	8月18日	アフリカサバンナで野生動物と家畜が共存できるか?—ケニアの乾燥地における住民、健全な生態系および生物多様性の共存に向けて—	水谷 文美 氏	ロンドン大学人類学部客員研究員
5回	11月4日	ネリカ耐冷性の品種間差異の検定と ケニア高原地方に適した耐冷性イネ品種の選抜	ピーター・マシンデ 氏	ジョモケニヤッタ農工大学上級講師(ケニア)/ ICCAE客員研究員
6回	12月25日	JICA事業における大学連携の可能性	花里 信彦 氏	国際協力機構企画部参事役/ ICCAE客員教授